

普及活動情勢報告（令和3年7月分）

中央西農業振興センター高知農業改良普及所

福祉事業所がキュウリ農作業を体験 ～農福連携見学・体験会の開催～



生産者が作業の手順を説明

6月23日、春野町のキュウリハウスで残さ(茎葉等)片付け作業の農福連携見学・体験会(事務局:普及所)を開催し、福祉関係5事業所や高知市農福連携研究会等から20名が参加しました。

普及所が作業内容や条件等を説明、また生産者が実演した後、参加者に作業を体験していただきました。参加者からは、「作業の内容がよく分かったので、是非働かせてほしい。」等、複数の事業所が「取り組みたい」という意向を示しました。

普及所は引き続き、生産者と事業所との調整を行い、農福連携のマッチングに繋げていきます。

新たな担い手確保に向けて ～高校生に農業の魅力発信～



名刺交換で次世代確保

6月23日、県立春野高校で高知県農業の魅力について紹介を行いました。農業に従事する場合のスケジュールや支援体制について管内主力品目であるキュウリを事例に説明しました。近年はスマート農業やIoP等デジタル技術がめざましく進歩していることを事例を交えて紹介しました。参加した7名の生徒からは、農業について、「楽しそう」「高知の農業を盛り立てる仕事に従事したい」など感想がありました。

今後、普及所は関係機関と連携しながら担い手確保に向けてPR活動を継続していきます。

女性リーダーの活躍に向けて ～農村女性リーダー県ネットワーク総会～



久しぶりの総会で
笑顔があふれました

6月24日、令和2年度農村女性リーダー県ネットワーク総会および研修会が、土佐山夢産地パーク交流館「かわせみ」で開催されました。高知地区も含め、県下34名の女性リーダーが参加しました。普及所は高知地区の女性リーダーと協力して会場準備や運営を行いました。総会終了後には、高知大学の川村晶子氏による「農業DX(デジタルフォーメーション)って何？」という講演を聴講しました。ITと農業の結びつきを分かりやすく説明していただき、女性リーダーのIT技術への関心が高まりました。

普及所は、今後も農村女性リーダーのレベルアップにつながるよう活動をサポートしていきます。

危険な場所や作業はどこだろう ～出荷場従業員向け GAP 研修会～



GAP は出荷場も取り組んでいます

6月28日、JA高知県春野営農経済センターで出荷場の従業員向けにGAP研修会を開催し、90名が参加しました。普及所からは、出荷場の点検内容や、ヒヤリハットの事例について説明しました。また、従業員から日頃の作業中にヒヤリハットした経験について報告してもらい、出荷場の危険な場所や作業に関する情報を聞き、問題点の洗い出しができました。

普及所と農協は、今回頂いた意見を参考に、今後も出荷場の環境改善に向けて取り組んでいきます。

新たな担い手確保に向けて ～春野新規就農者支援チーム会開催～



支援チームでの活動

JA高知県春野営農経済センターで7月6日、春野新規就農支援チーム会を開催しました。R3年度の新たな研修生とR3年8月から独立就農予定のR2年度研修生の進捗状況、今後の支援についてスケジュールを共有しました。また、8月のキュウリ基礎講座開講に向け、講座内容等について検討を行いました。

2名の研修生はいずれも、順調に進んでいます。今後も関係機関と連携しながら引き続き新規就農支援を行っていきます。

今年の稲の出来はどうか？ ～JA高知市稲作部会現地検討会～



活発的な意見交換がなされた

7月9日、稲作部会現地検討会が開催され、生産者9名が参加しました。普及所の実証試験ほ場と農業技術センターの試験ほ場を視察し、普及所からは実証試験の概要と生育状況について説明しました。生産者からは「よさ恋美人の早進化試験の結果が気になる」や「低コスト肥料でも生育が良ければ使いたい」といった声が聞かれました。

今年は平年に比べ梅雨入りが早かったため、生育速度は遅れていますが、普及所では適期収穫等と呼びかけ、収量・品質の確保に努めていきます。